2018.4

事例から学ぶ

# 相談員のための トラブル対策 NEWS

## 転倒の原因となる服薬を家族に知らせてみたら

**■家族の意外な反応にビックリ**

Ｍさん（女性・81歳）はショートステイを利用している認知症の重い利用者ですが、キーパーソンの娘さんが絶えず転倒を心配されます。利用の度に「絶対転倒させないで下さい」と念を押しますが、相談員は「全ての転倒を防げる訳ではありませんし、転倒防止のために立たせないようにすることも身体拘束が法令で禁止されているのでご理解をお願いします」ときちんと説明しています。

ある時、Ｍさんの利用時に服薬をチェックしていると、抗精神病薬が新たに処方されていました。相談員は、「抗精神病薬が処方されていますが、何かあったのですか？」と尋ねました。すると、「デイサービスで他の利用者さんに迷惑をかけてしまったので、お医者様に相談したら落ち着く薬だと言って処方してくれたのです」と答えました。ところが、Ｍさんは３日間の利用で５回も転倒し、娘さんは相談員に「骨折したら困ります。転倒は絶対に防いで下さい」と懇願してきます。相談員は、「新しい転倒骨折事故防止」セミナー（ＡＤ主催）を受講した際に入手した、「家族向けの転倒の原因となる服薬チラシ」を見せて、Ｍさんも転倒につながる薬を飲んでいるので、ご家族から医師にご相談いただけませんか？」と提案しました。すると、娘さんは「え？転倒につながる薬があるのですか？本当ですか？」と驚き、すぐにお医者様に相談します」と言いました。

## 家族に事故防止への協力を求めれば家族の意識も変わる

**■施設職員だけで事故は防げない**

施設の職員は自分たちだけで事故を防ごうとします。しかし、家族の協力がなければ防げない事故もたくさんあるのです。ショートの利用者は在宅の利用者ですから、施設側が服薬の見直しをすることはできません。服薬が原因で起こる転倒事故に対して、施設職員は「見守りの強化」と言ってマンパワーだけで防ごうとしているのです。

ですから、施設はもっと家族に対して「家族の事故防止に対して責任と役割があることを認識してもらい、家族の協力を求めるべきなのです。上記事例の娘さんのように「お母様の転倒の原因は服薬も多いのですよ」と説明すれば、転倒の根本原因を改善してくれるかもしれません。

**■家族が事故の原因を作っていたら・・・**

施設で事故が起こると、施設の責任ばかり激しく追求する家族がいます。しかし、「問題行動があると介護できない」と言って、家族が自分たちの都合で医師に向精神薬の処方を求めていたとしたらどうでしょう。施設での転倒の根本原因を作っているのは家族なのです。施設は事故防止のための対策で知恵を出すと同時に、これらの活動を逐一家族に知らせて、家族にも事故防止に対して家族としての責任と役割があることを認識してもらうべきではないでしょうか？

ご利用者･ご家族のみなさまへ

**転倒事故の原因となる処方薬にご注意ください！**

厚生労働省の研究事業や日本老年医学会によれば、高齢者の転倒事故や誤えん事故が服薬の影響によって起きていると指摘されています。転倒事故は寝たきりになるなど高齢者の生活に障害をもたらしまし、誤えん事故は生命の危険に直結する事故です。
できる限り副作用の少ない薬を服用することで、転倒の危険を少しでも減らすことができます。お医者様にご相談の上、転倒や誤えん事故の防止にご協力いただきたくお願いいたします。

**こんな薬を飲んでいたらチェックしてもらいましょう**

■転倒の危険につながる主な処方薬

| 薬の種類 | | 転倒のリスクを高める副作用 | 主な薬名 |
|---|---|---|---|
| 血圧降下剤 | Ca拮抗薬 | 失神、起立性低血圧、めまい | ノルバスク、アムロジン、アダラート、 |
| | α遮断薬 | 失神、起立性低血圧、めまい | ミニプレス、カルデナリン |
| | β遮断薬 | 失神、起立性低血圧、めまい | インデラル、セロケン、テノーミン |
| | ACE阻害薬 | 失神、起立性低血圧、めまい | カプトプリル、レニベース、 |
| | ﾙｰﾌﾟ利尿薬 | 失神、起立性低血圧、めまい | ダイアート、ルプラック、ラシックス |
| 血糖降下剤 | | めまい、ふらつき | メトグルコ、グリベンクラミド |
| 抗認知症薬 | | めまい、ふらつき | アリセプト |
| 筋弛緩薬 | | 脱力、筋緊張低下 | アロフト、ミオナール、エスラックス |
| 抗うつ薬 | | 眠気、ふらつき、集中力・注意力低下、めまい、 | デプロメール、パキシル、トレドミン、サインバルタ |
| 抗精神病薬 | | ふらつき、注意力低下、失神、起立性低血圧、めまい、 | リスパダール、セロクエル、ジプレキサ |
| 抗パーキンソン薬 | | せん妄 | アキネトン、カルコーパ、トリヘキシン |
| ﾍﾞﾝｿﾞｼﾞｱｾﾞﾋﾟﾝ系抗不安薬・睡眠薬 | | 脱力、筋緊張低下、眠気、ふらつき、集中力・注意力低下 | デパス、レキソタン、セルシン、エリスパン |
| | | 脱力、筋緊張低下、眠気、ふらつき、集中力・注意力低下 | ロヒプノール、ベンザリン、エリミン、ダルメート |

※上記の薬が全ての利用者に副作用を生じさせるわけではありません。
※上記の薬を服用していても直ちに中止せず、必ずかかりつけの医師にご相談下さい。

■参考文献
「薬剤者が気を付けたい多すぎる薬と副作用」日本老年医学会・日本老年薬学会
「かかりつけ医のためのＢＰＳＤに対応する向精神薬使用ガイドライン」厚生労働省
「薬剤者の安全な薬物療法ガイドライン2015（日本老年医学会）
「薬剤者において疾患・病態によらずー般に使用を避けることが望ましい薬剤」国立保健医療科学院

**私たち職員は利用者様の転倒防止の取り組んでいます**

特別養護老人ホームOO苑
担当　OO　TEL

ショートの家族向けの服薬見直しチラシ

発行責任者
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
マーケット開発部　市場開発室
監修　担当　堀江　TEL　03-5789-6456
株式会社安全な介護　代表　山田　滋

担当課支社・代理店
株式会社福祉施設共済会
東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSﾋﾞﾙ
電話03-5466-0881　FAX03-5466-0882